

小中の連携をはかり、 同じ地域に生活する児童・生徒に対する 系統的な教育の在り方を考える

I 主題設定の理由

「地域の子どもは、地域で教育する」という基本理念のもと、同地域の子どもの育成に携わる教職員が、地域との連携の強化を図りながら、児童生徒の実態について深く理解し、小中の系統的な教育の在り方を研究するために、本主題を設定した。

II 研究の内容

1、第1回ブロック研究会

(1) 日時 8月7日(金) PM1:30～

(2) 目的 地域の人材や施設、史跡を生かした臨地研修を実施し、小中教職員が連携しながら、地域に生きる子ども達の教育に活用する。

(3) 内容・コース

ア、旧田中銀行と大善寺見学コース

- ・田中銀行の見学と勝沼宿についての講話
- ・大善寺の見学と講話

イ、陶芸教室とワイナリー見学コース

- ・「かつぬま焼き」陶芸教室での実地体験
- ・錦城ワイナリー見学

ウ、勝沼ぶどう郷駅周辺見学コース

- ・大日影トンネル遊歩道 ワインカーブ見学

エ、釈迦堂遺跡博物館とワイナリー見学

- ・釈迦堂遺跡博物館見学
- ・丸藤葡萄酒ワイナリー見学

2、第2回ブロック研究会

(1) 日時 11月4日(水) 2:15～

(2) 目的 中学校の授業を参観し、情報交換及び懇談をとおして小中の連携を強化し、今後の教育活動に生かしていく。

(3) 内容 中学校の授業参観

授業提供 勝沼中学校 全学年全クラス

分科会 「中1部会」「中2部会」「中3部会」の3分科会。
小学校で該当学年を担当した教職員に所属してもらい、授業をとおして見た生徒の成長や課題について情報交換し合った。

3、第3回ブロック研究会

(1) 日時 1月13日(水) PM3:00～

(2) 目的 小中に関わる今日的な問題についての講演会を実施し、研究を深める。

(3) 内容 講義と実地研修「よりよいコミュニケーションを築くためのアサーショントレーニング」

講師 精神保健福祉士(カウンセラー) 町田悦子先生

III 成果と課題

- ・臨地研修は地域の史跡・文化・産業に直に触れることが出来、地域への理解を深め、指導に役立てることが出来た。地域を知ることと同時に、共に活動することで小中の教職員の親睦も深められる絶好の機会となっている。
- ・勝沼中学校の授業公開は「自己表現力」「コミュニケーション力」に焦点を当て、小学校での指導の在り方も考える機会となった。
- ・事後の分科会の中1・中2・中3の3部会で、小学校時の担当教職員と中学校の該当学年担当教職員が生徒の成長や課題について情報交換し合い、小中の連携が深まるよい懇談の機会となった。
- ・アサーショントレーニングの講演は、実地研修をしながら楽しく学ぶことが出来た。児童生徒のコミュニケーション能力の低下が、不登校やトラブルの原因にもなっていることが多いが、相手を気遣いながら素直な気持ちを伝えることは、大人でもなかなか難しいと改めて気付かされた。この研修を対児童生徒、対保護者、そして職場の人間関係、子ども達どうしの人間関係の向上の為に活用したい。
- ・臨地研修はよい機会だが、コースについてマンネリ気味なのでもっと範囲を広げるほうがよいという意見もある。しかし他地域から新しく転任してきた職員には、この地域の史跡や文化、産業を理解し、またブロック内の他校の教職員と親睦を深める絶好の機会となっているので、次年度の課題としていきたい。

(ブロック長 網野 勝朗)